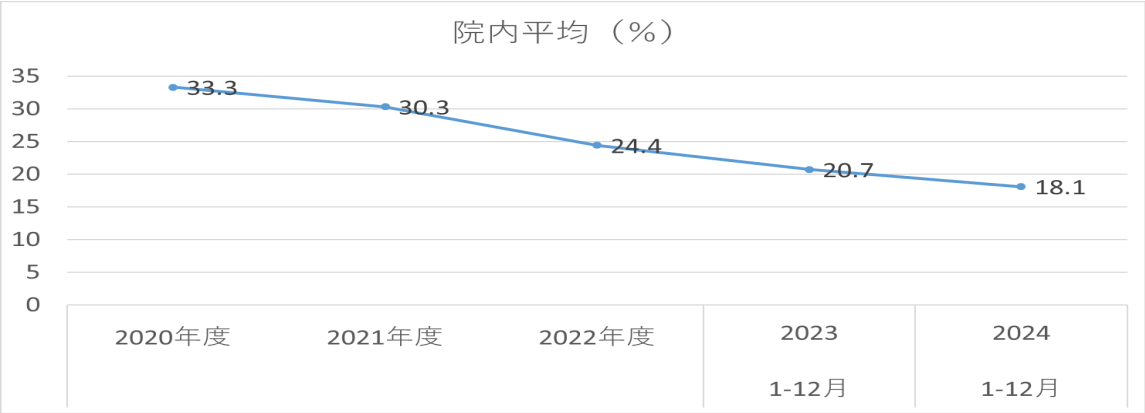
【身体拘束率の推移】

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
院内平均（%）	35.3	33.3	30.3	24.4	20.7	18.1
全国平均(QI)		11.6	12.2	12.2	11.8	

（全国平均：日本病院会 QI プロジェクトより参照）



分子：(物理的）身体拘束を実施した患者数

分母：18 歳以上の入院患者延べ数

2019 年より身体拘束最小化に取り組み、昨年までに 17.2%減少しています。病棟機能別では、一般病棟約 14%、地域包括ケア病棟約 13%、療養病棟約 21%の減少となっています。

【身体拘束最小化に向けた取り組み】

身体拘束とは、患者さんご本人の行動の自由を制限することを言います。当院では「患者さんの権利を十分尊重し、心のこもった安全な医療を実践する」という病院運営理念のもと、患者さんの人間としての尊厳を尊重するため、緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束は実施しません。しかし、患者さんご本人または他の患者さんの生命または身体を保護するためなど、やむを得ない理由により身体拘束を行う場合があります。

当院では、認知症やせん妄状態の患者さん等に対して、一日も早く身体拘束を要する状況を離脱するため、生活リズムを整える看護を中心に様々なケアを行い、身体拘束の最小化に取り組んでいます。また、認知症看護認定看護師を中心に、看護部高齢者ケアチーム、認知症ケアサポートチーム、身体拘束最小化チームが職員への教育や指導を行っています。

【身体拘束最小化のためのケア】

○ 院内デイケア
○ 看護師・看護助手による見守り
○ ユマニチュード
○ タクティール®ケア
○ 認知症マフ